

第16回デジタル田園都市国家構想実現会議提出資料

若宮構成員

全般について

結論

コンテスト、前年度については、大いに意義があったと思えるので存続に賛成。

今後の改善点

① 名称について

デジタルに限らず、最新のテクノロジーすべてを駆使したスマート田園都市であるべきだし、実際、去年の Digi 田甲子園でもそういうプロジェクトが多かったので「スマート田園都市」などに変更してもいいのではないかと思われる。

・「デジタル」に込められた意味について、とにかく「スマホを使える市民が増えた、という発想」が多いが「使いこなせているか」「仕事や生活に生かしているか」という観点、新規利用者の感想なども終了後の報告に盛りこめていただけるとありがたい。

② コンテストの改善点

活用範囲として

・現在は「デジタル＝スマホ」のように捕らえられているようだが、もっと幅広いデジタル機器の紹介も必要と思われる。外出の機会の少ない後期高齢者には「タブレット」の方が便利だし、手入力の不要な AI スピーカー等の活用が体の不自由な人には便利かもしれない、等々。

③ 公開範囲拡大

優秀作品の表彰だけでなく、部分的でも独自のアイディアの光る「チラリピカリ作品」なども公開すると「同規模」「同環境」の自治体に参考になり得るとと思われる。

その他

高齢者へのデジタル普及について

① 普及について

高齢者の場合、デジタル推進委員さんだけでなく「地域包括センター」や「民生委員」との連携もありと思われる。

・活用方法についても「スマホの使い方の講習会を増やす（もちろんこれも重要）」だけ

でなく、例えば「危機管理」などの講習会でスマホが「いざという時に如何に役立つか」などを教えることも重要と思う。

② 高齢者へデジタルを日常化させるには（定着度が低い）

- ・推進担当に「高齢者」を加える。

- ・せっかく習得しても忘れないためには「勉強会修了者向け」「地域の老人クラブ向け」のオンライン交流サイトを作り高齢者に役立つ情報を載せるなどが必要。市内で「お花見大会」などをやり、スマホで撮った写真をアップするサイトを用意するなども。

- ・公民館など自治体のすべての施設で Wi-Fi が使えることが大前提であるべき。